

長岡京跡右京第 1158 次調査 現地説明会資料

1 はじめに

本調査は、長岡第十小学校放課後児童クラブ等の建設に先立って実施された発掘調査です。調査地は、長岡京跡右京二条三坊二町域にあたり、旧石器時代から近世にかけての複合遺跡である上里遺跡にもあたります。調査地付近は東に向かって緩やかに傾斜する小畑川西岸氾濫原の微高地に位置し、北には小畑川と善峰川の合流地点が、東には小畑川を挟んで向日丘陵と長岡宮域が、南には乙訓寺の所在する低位段丘が広がっています。

今回の調査は、当初建物建築予定地である西側約 460 m²の範囲を調査していましたが、調査区東端にて大型の柱穴列を発見したため、各関係機関の協力により東側に調査区を拡張し、全体で約 690 m²の範囲を調査することになりました。結果、今回の調査では、大型掘立柱建物や大型土坑群などを発見するに至りました。特に大型掘立柱建物は、1979（昭和 54）年の長岡第十小学校建設に先立つ長岡京跡右京第 25 次調査で発見され大きな話題を呼んだ大型掘立柱建物の関連施設とみられます。今回の発見によって、右京二条三坊二町域を占有する大型施設の様相に新たな知見が加わり、長岡京の宅地利用の解明に向けて大きな成果を得ることができました。

調査期間：平成 29 年 6 月 12 日～9 月 4 日（予定）

調査面積：約 690 m²

長岡京は、桓武天皇によって造営された都で、784（延暦 3）年から 794（延暦 13）年の 10 年間に渡って機能しました。都の範囲は、東西約 4.3 キロメートル、南北約 5.2 キロメートルにおよび、政治の中心である大極殿や朝堂院などは現在の向日市域に、経済の中心である市などは現在の長岡京市域に、物流の拠点である内陸港湾施設などは現在の大山崎町域に置かれていました。

2 調査の概要

本調査では、長岡京期の大型掘立柱建物や大型土坑群などのほか、縄文時代後期の土坑なども発見されました。以下に主な遺構を紹介します。

（1）主な検出遺構

①大型掘立柱建物 SB61

調査区東端部および拡張調査区にて検出された大型掘立柱建物です。桁行 7 間、梁間 2 間の南北棟で、東側に 1 間分の庇が付くとみられます。柱掘形は隅円方形から円形を呈し、一辺（直径）約 1.4m を測ります。柱間寸法は庇も含め 3.0m で当時の 10 尺にあたります。直径約 0.35m の柱痕跡が残存し、柱根自体が残るものや柱痕跡底部に礎板を配置するものもみられます。なお、抜き取り痕跡の残る柱穴もあり、建物廃絶時の処置は様ではありません。

②掘立柱建物 SB89・118

SB89 は調査区北東部および拡張区北部で検出した柱穴列です。掘形は隅円方形を呈し、一辺は約 0.7m を測ります。いずれも柱痕跡が残存し、柱間寸法は 2.4m 等間です。なお、西側 2 基には柱根が残存します。柱穴の規模、性格などから北側調査区外に展開する東西 3 間の掘立柱建物とみられます。また東端柱穴は SB61 を構成する柱穴に切り負けます。

SB118 は拡張区北東部で検出した柱穴列です。掘形は隅円方形を呈し、一辺は約 0.7m を測ります。いずれも柱痕跡が残存し、柱間寸法は 2.4m 等間です。柱穴の規模、性格などから東側調査区外に展開する南北 2 間の掘立柱建物とみられます。なお、南端柱穴は SB61 を構成する柱穴に切り負けます。

いずれの建物も方位に乗っており地形の影響を受けていないことや、隅円方形の規格的な掘形をもつことなどから長岡京期の遺構と考えられます。

③大型土坑 SK67・68・71

調査区東部で検出した南北に連なる土坑群です。

土坑 SK67 は東西約 2.5m、約南北 4.0m、深さ約 1.3m を測ります。埋土は礫の混じる黄褐色～暗褐色の砂質土が幾重にも堆積し、底部には黒褐色の粘質土が堆積します。土師器片と少量の須恵器片が整理箱 0.5 箱ほど出土しました。

土坑 SK68 は東西約 2.3m、南北約 3.8m、深さ約 0.4m を測ります。他の 2 基より明らかに浅く、埋土は砂質土のみです。土師器片および須恵器片が少量出土しました。

土坑 SK71 は東西約 2.2m、深さ約 1.0m を測り、北側は調査区外へと延びます。埋土は SK67 と同じく礫の混じる黄褐色～暗褐色の砂質土からなり、底部に黒褐色の粘質土が堆積する。土師器片と少量の須恵器片が整理箱 0.5 箱ほど出土しました。

④土坑 SK12

調査区南西部で検出した不定形の土坑です。東西幅約 4.5m、南北幅約 1.7m、深さ約 0.8m を測ります。埋土は黒褐色の粘質土で礫を多く含みます。

⑤不明遺構 SX24

調査区南西部で検出した東西に長い性格不明の遺構です。長さ約 3.5m、幅約 0.6m、深さ約 0.15m を測ります。埋土は灰褐色～黒褐色の砂質土で礫が混じります。

（2）主な出土遺物

本調査では大型土坑群から土師器や須恵器などの土器片が出土しました。特に土師器は杯や皿の破片が多く、長岡京期の特徴がよくわかる遺物も出土しています。一方で、奈良時代の特徴をもつ、やや古手の遺物も同時に出土しており、興味深い内容となっています。また、調査区西側の土坑 SK12 や不明遺構 SX24 などからは縄文時代後期前葉～中葉の縄文土器片が出土しています。

○大型掘立柱建物 SB61 の発見により、右京二条三坊二町の宅地利用について新たな知見が得られました。これまでも右京第 25 次調査の成果から、右京二条三坊二町域の中心には東西 7 間、南北 2 間の身舎に北側および南側に庇の付くと推定される大型掘立柱建物 SB2569 が配置されていることが知られていました。大型掘立柱建物 SB2569 は、身舎の柱間距離が 3 m、庇の出が 3.9m (13 尺) でそれが南北両面に付く建物で、柱の掘形が一辺 1.5m～2.5m、柱の直径が 0.4m にも及び、その規模と配置から右京二条三坊二町域全体を占有する施設の主殿とみられています。今回発見された大型掘立柱建物 SB61 は、柱間距離は庇の出も含めて 3 m、柱の掘形は一辺約 1.4m で、柱の痕跡から直径 0.35m の柱が使用されたとみられ、大型掘立柱建物 SB2569 よりやや規模の小さい建物であったと推測されます。このことから、SB61 は SB2569 の主殿に対する西脇殿と言え、右京二条三坊二町域を占有していた施設は複数の大型掘立柱建物によって構成されていたことが判明しました。また、この規模の建物群をもつ一町占有の施設には、貴族の邸宅、官衙、離宮などが想定されますが、右京第 25 次調査と今回の調査を合わせても瓦の出土量が極めて少ないことから、貴族の邸宅であったと考えられます。ただし、離宮としても遜色のない規模であることや宮城西面街区という好立地で一町域を占有していることなどから、かなり的高级貴族の邸宅であったことがうかがえます。

○大型掘立柱建物 SB61 の西隣りで南北に連なる大型土坑 SK67・68・71 が検出されました。周辺の調査でも右京第 25 次調査や右京第 903 次調査で類似の連続土坑が見つっています。いずれの土坑群も条坊に沿って展開していることから、今回発見した土坑群も二条三坊二町内のなんらかの区画に沿って作られた可能性があります。関連すると考えられる遺構としては、大型土坑群と重なって検出された長岡京期の溝 SD11 の南延長部分とみられる溝が第 25 次調査の 9 トレンチでも見つっています (SD2561)。なお、大型土坑の性格については、土壁用粘土採掘坑、トイレ遺構、平安遷都時の廃棄土坑 (ゴミ捨て穴) などの可能性が考えられ、引き続き分析と検討を要します。

京都府
京都市
向日市
京都市

右京
左京

北京極大路
北一条大路
一条条間大路
一条大路
二条条間大路
二条大路
三条大路
四条大路
長岡京市
五条大路
埋蔵文化財センター
六条大路
七条大路
八条大路
九条大路

長岡宮

今回の調査地

大山崎町
西四坊大路
西三坊大路
西二坊大路
西一坊大路
朱雀大路
東一坊大路
東二坊大路
東三坊大路
東四坊大路

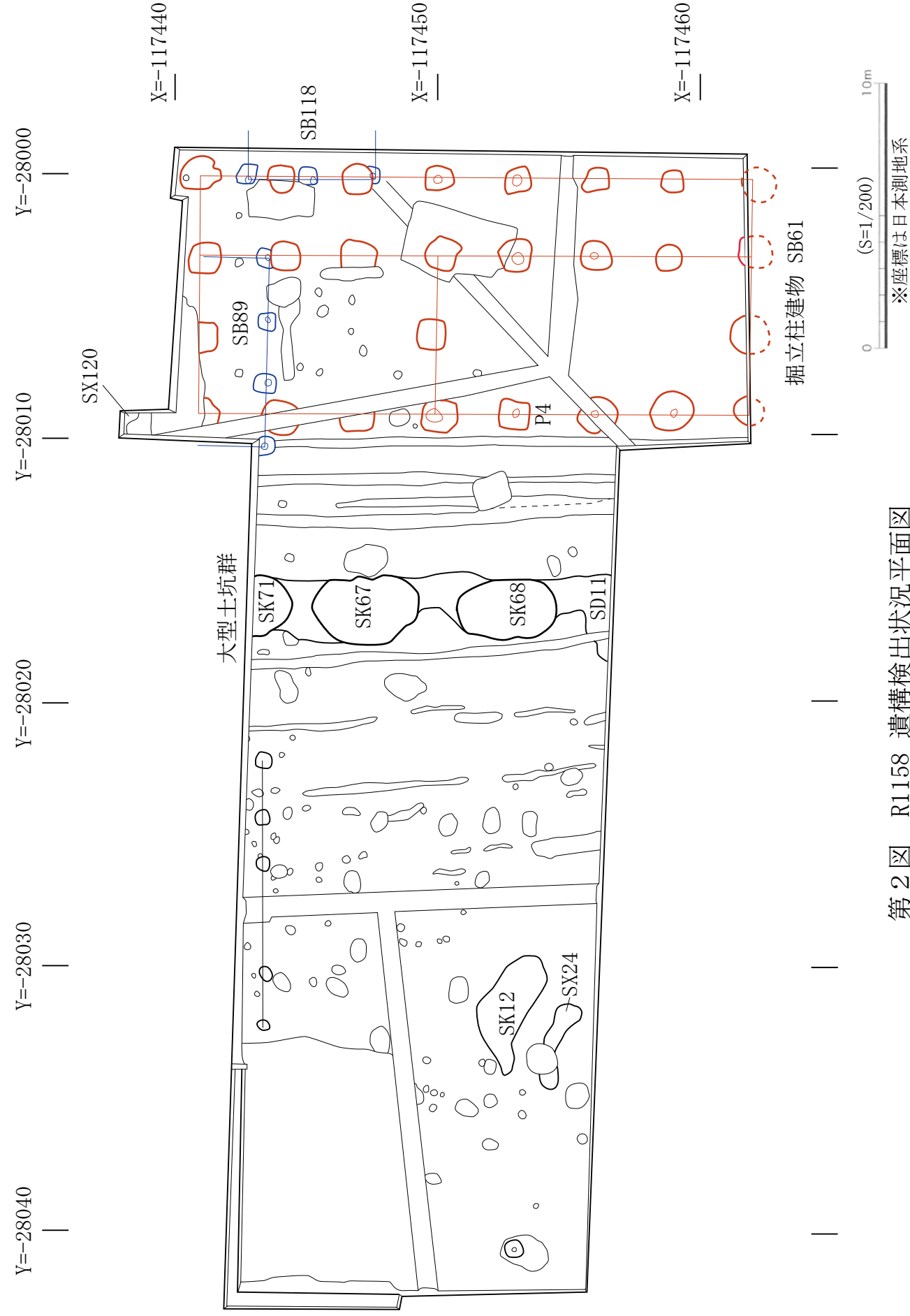
大阪府
島本町

京都市

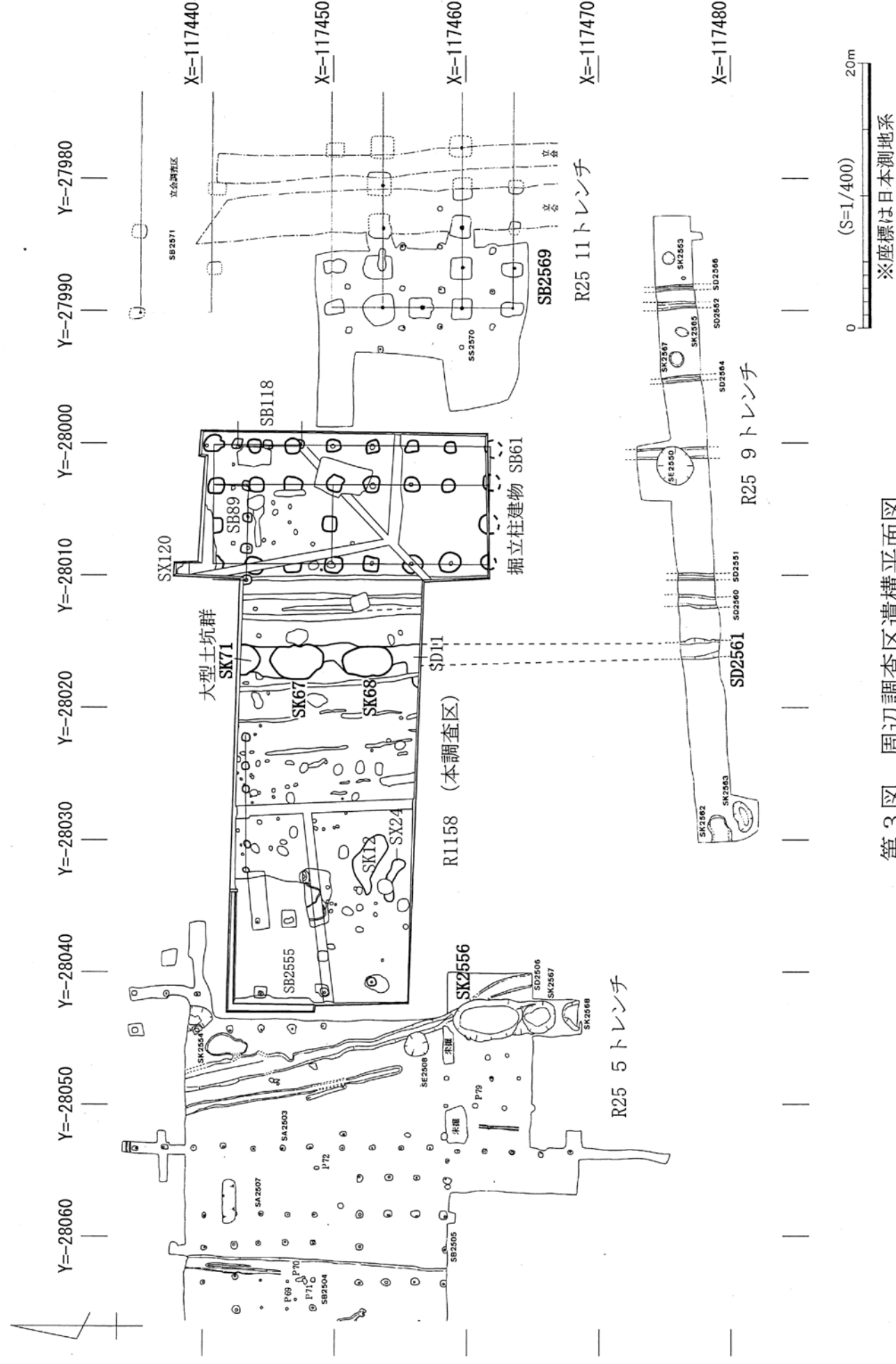
久御山町

0 2000m

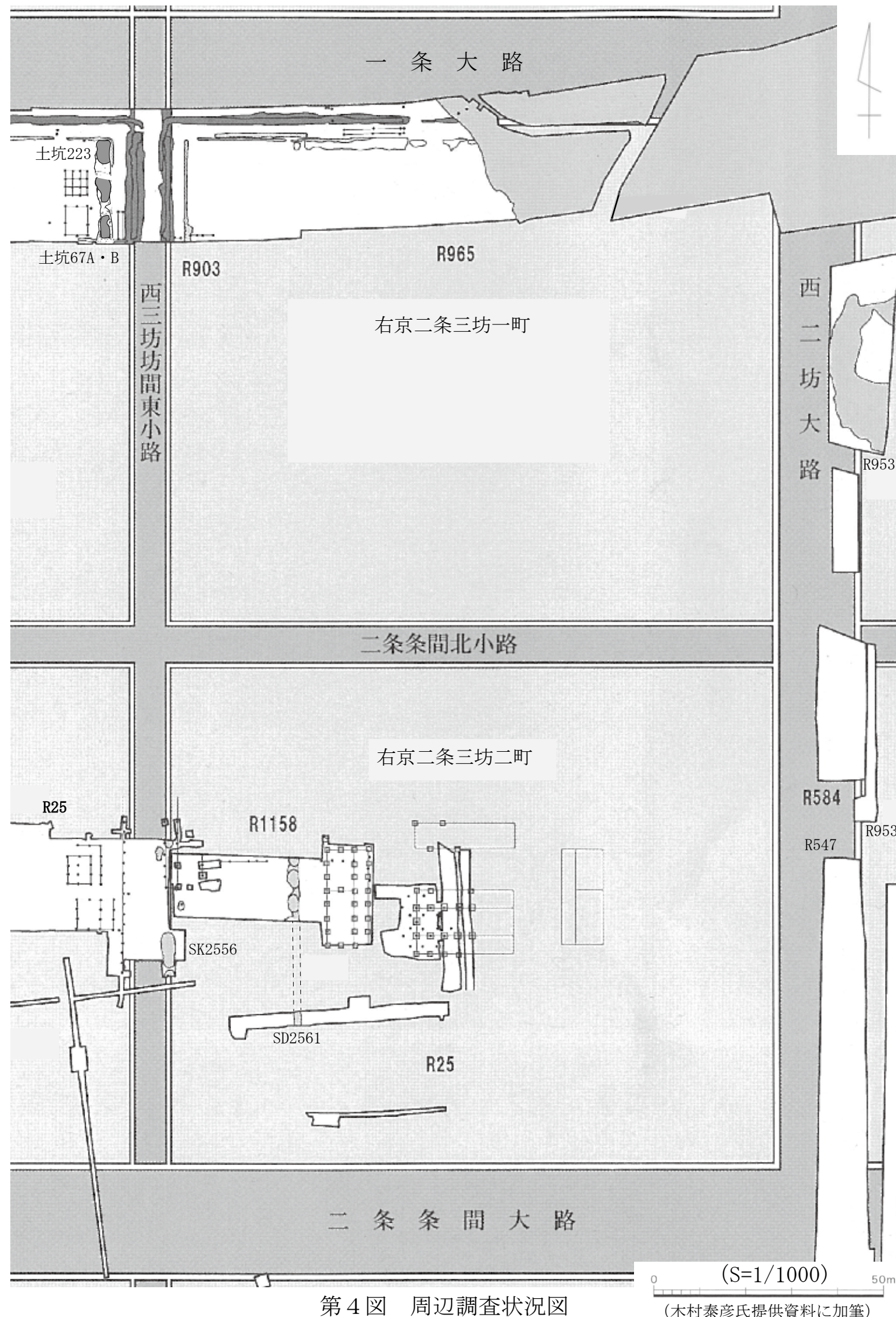
2



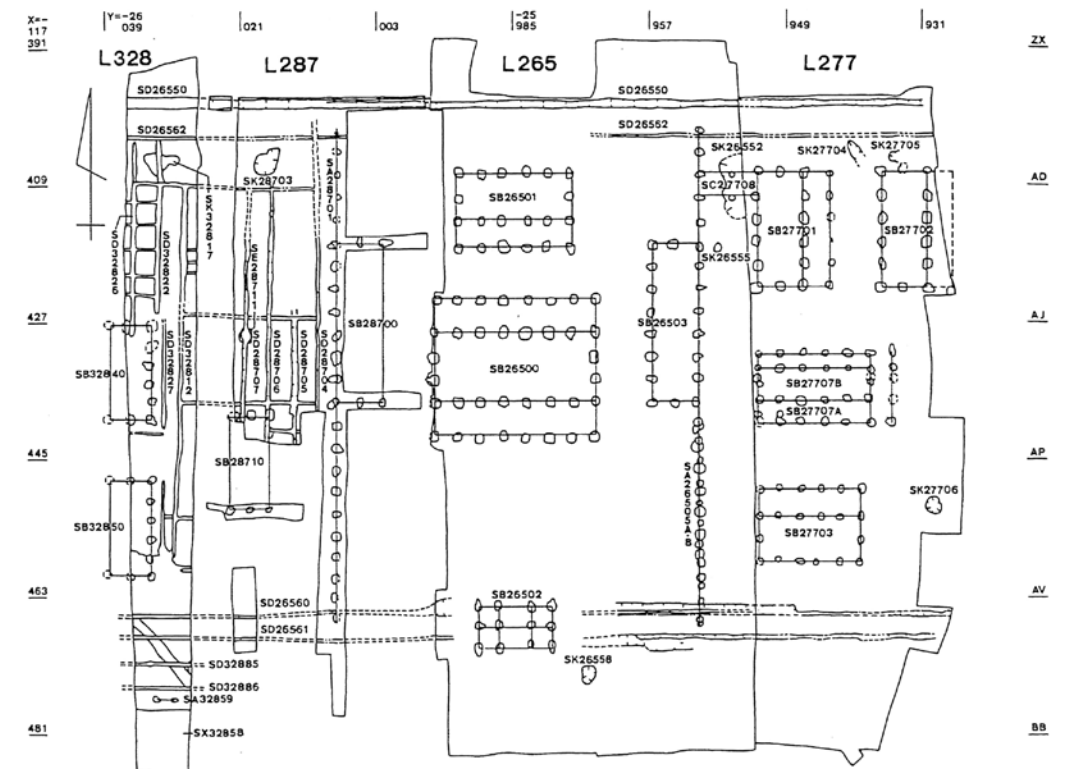
第2図 R1158 遺構検出状況平面図



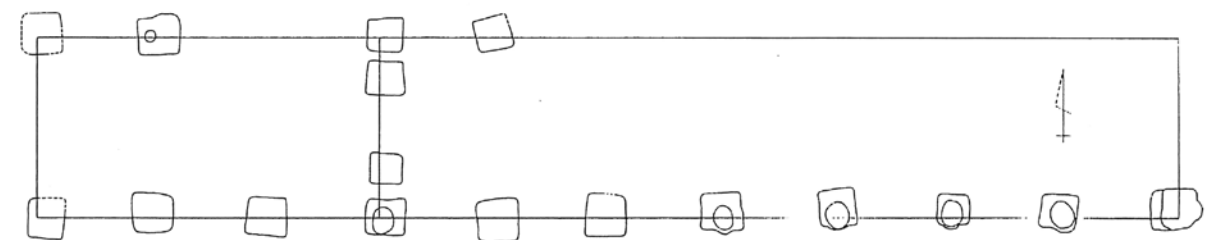
第3図 周辺調査区遺構平面図



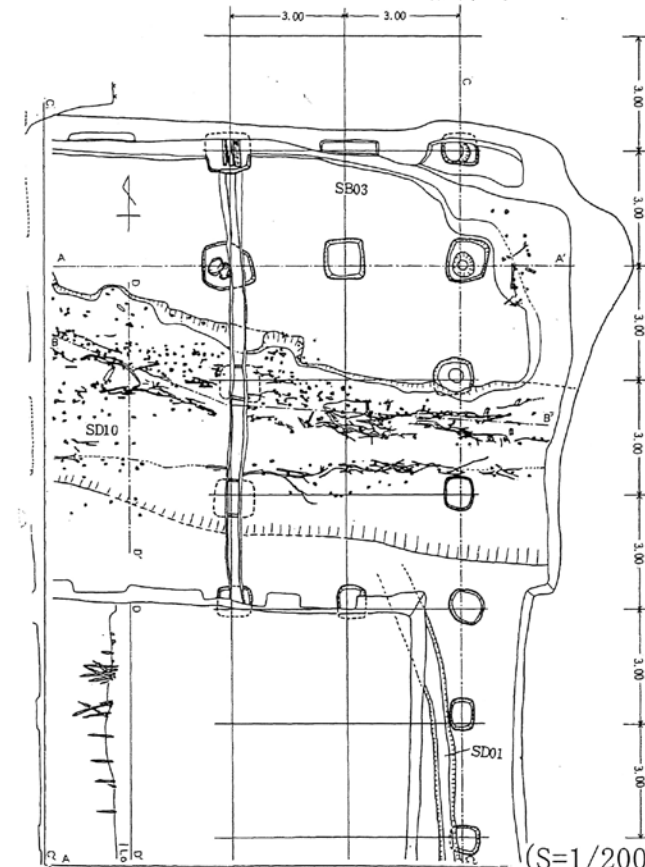
第4図 周辺調査状況図



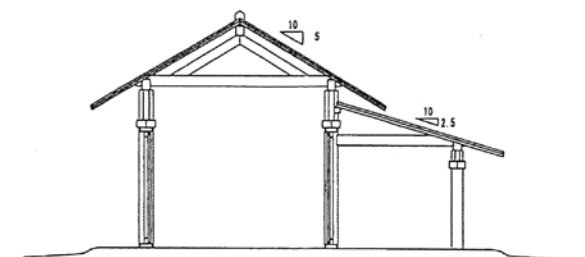
①左京二条二坊十町 離宮跡遺構平面図 (S=1/1000)
(計画的な建物配置の例)



②左京北一条三坊二町 東院跡 掘立柱建物 SB435002 遺構平面図 (S=1/200)
(間仕切りのある掘立柱建物の例 その1)



③左京四條二坊二・七町 掘立柱建物 SB03
(間仕切りのある掘立柱建物の例 その2)



SB435003 断面図 (1/200)

④左京北一条三坊二町 東院跡 掘立柱建物 SB435003
(庇付き建物断面図例)

文献一覧

- ①山中章・梅本康弘「長岡京跡左京二条二坊十町」
『向日市埋蔵文化財調査報告書』第56集
財団法人向日市埋蔵文化財センター 2003年 第15図を改変
- ②梅本康弘ほか「長岡京跡左京北一条三坊二町」
『向日市埋蔵文化財調査報告書』第55集
財団法人向日市埋蔵文化財センター 2002年 第31図を改変
- ③高橋美久ほか「長岡京跡左京三条二坊第2次発掘調査概要」
『埋蔵文化財発掘調査概報』京都府教育委員会 1976年 第18図を改変
※上記条坊名は旧条坊復元案によっている
- ④山岸常人「東院建物復元の方法と問題点」
『古代学研究所研究報告』第7輯
財団法人古代学協会・古代学研究所 2002年 第70図より抜粋



大型掘立柱建物 SB61 検出状況（南西から）



大型土坑 SK67 土層断面（南から）



大型掘立柱建物 SB61 柱穴 P4 半截状況（西から）



大型土坑 SK71 土器出土状況（北から）